

2021年度 授業評価アンケート集計結果

本学の授業評価アンケート

本学では、平成7年度から講義・演習に対して、さらに令和元年度からは臨地実習に対する授業評価も加え、毎年、学生による授業評価アンケートを実施している。

アンケートの結果は、「学生による授業評価アンケート集計報告書」として、教職員に配布し、学生には閲覧できるようにしている。

教員は、アンケート結果を分析し、次年度の授業改善に活かせるように、年度末に授業改善用紙を記載し、看護学科長・専攻科長に提出している。

評価基準は下記のとおりである。

A (5点) : 満足 B (4点) : やや満足 C (3点) : 普通 D (2点) : やや不満 E (1点) : 不満

看護学科 (講義)

番号	項目	平均点
1	教員の声の大きさは適切であった。	4.6
2	話し方は明快で、その速さは適切であった。	4.7
3	教員の熱意が感じられた。	4.6
4	教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。	4.6
5	黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。	4.6
6	参考文献等の紹介は適切であった。	4.7
7	シラバスにほぼ沿うように進められた。	4.6
8	要点が理解できる内容であった。	4.7
9	講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。	4.6
10	他の講義とのつながりが説明されていた。	4.6
11	講義は学生の知識・力量等に合わせて進められた。	4.6
12	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つよう努めていた。	4.7
13	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.7
14	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.6
15	集中して聴ける講義であった。	4.6
16	知的好奇心が刺激される講義であった。	4.6
17	新しいものの見方が得られる講義であった。	4.6
18	さらに深く学びたいと思える講義内容であった。	4.6
19	総合的にこの講義は良かった。	4.2
20	講義を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.6
21	講義中は集中して聴いていた。	4.8
22	迷惑行為をしなかった。	4.6
23	教員の説明内容を積極的に書き留めた。	4.1
24	不明な点は、担当教員に質問した。	4.4

看護学科 (演習)

番号	項目	平均点
1	演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。	4.6
2	教科書、参考資料（プリント等）の使用法・量は適切であった。	4.6
3	要点が理解できる内容であった。	4.5
4	演習に使用する器具・機器の使用法の説明が具体的でわかりやすかった。	4.5
5	教員のデモンストレーション等は適切であった。	4.6
6	教員の熱意が感じられた。	4.4
7	レポートの量・提出期限は適切であった。	4.4
8	レポートの書き方・考察の指導は適切であった。	4.4
9	提出した学習課題の指導は適切であった。	4.5
10	提出した課題の返却時期は適切であった。	4.6
11	正しい知識・技術を習得できるように、その都度、教員は指導していた。	4.6
12	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.5
13	学生の知識・力量等に合わせて進められた。	4.6
14	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.7
15	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.7
16	積極的に参加できる演習であった。	4.6
17	さらに深く学びたいと思える演習内容であった。	4.6
18	総合的にこの演習は良かった。	4.5
19	演習を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.7
20	演習中は積極的に取り組んだ。	4.8
21	迷惑行為をしなかった。	4.7
22	グループワークは協調性をもって行えた。	4.6
23	不明な点は、担当教員に質問した。	4.5

看護学科（臨地実習）

番号	項目	平均点
1	実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。	4.8
2	実習で使用する資料や物品は準備されていた。	4.7
3	参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。	4.7
4	指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。	4.8
5	学生が対象者（患者・家族等）とうまく関われるように配慮していた。	4.8
6	学生がスタッフとうまく関われるように配慮していた。	4.8
7	報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。	4.8
8	学生が望む体験ができるような機会を作っていた。	4.8
9	記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。	4.7
10	オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。	4.8
11	学生の看護観を深める実習内容であった。	4.7
12	場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。	4.8
13	正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた	4.8
14	対象者の個別性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。	4.7
15	看護者としてのモデルを示していた。	4.8
16	熱意や誠実性が感じられた。	4.8
17	学生の人格を尊重した関わりであった。	4.6
18	記録物の量は適切であった。	4.6
19	事前課題の提示の時期・量は適切であった。	4.7
20	実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。	4.7
21	学生の知識・力量などに合わせて指導していた。	4.8
22	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.8
23	さらに深く学びたいと思える実習であった。	4.8
24	この実習指導は良かった。	4.8
25	実習に臨むための事前準備（シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習）を行った。	4.8
26	積極的（意欲的）・主体的に取り組み、常に学ぶ姿勢をもっていた。	4.8
27	常に倫理観をもって取り組んだ。	4.8
28	チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。	4.7

専攻科（講義）

番号	項目	平均点
1	教員の声の大きさは適切であった。	4.7
2	話し方は明快で、その速さは適切であった。	4.9
3	教員の熱意が感じられた。	4.7
4	教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。	4.8
5	黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。	4.8
6	参考文献等の紹介は適切であった。	4.8
7	シラバスにほぼ沿うように進められた。	4.7
8	要点が理解できる内容であった。	4.8
9	講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。	4.7
10	他の講義とのつながりが説明されていた。	4.7
11	講義は学生の知識・能力等に合わせて進められた。	4.8
12	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.7
13	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.9
14	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.8
15	集中して聴ける講義であった。	4.8
16	知的好奇心が刺激される講義であった。	4.8
17	新しいものの見方が得られる講義であった。	4.8
18	次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える講義内容であった。	4.6
19	講義をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.7
20	講義中は集中して聴いていた。	4.8
21	迷惑行為をしなかった。	4.6
22	不明な点は、教員に質問した。	4.7

専攻科（演習）

番号	項目	平均点
1	演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。	4.7
2	教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。	4.7
3	演習に使用する器具・機器の使用方法が具体的でわかりやすかった。	4.6
4	教員のデモンストレーション等は適切であった。	4.6
5	要点が理解できる内容であった。	4.8
6	教員の熱意が感じられた。	4.7
7	正しい知識・技術を習得できるようにその都度、教員は指導していた。	4.6
8	進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。	4.7
9	学生の知識・能力等に合わせて進められた。	4.7
10	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.9
11	迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。	4.7
12	学習課題の量・提出期限は適切であった。	4.6
13	学習課題の指導は適切であった。	4.7
14	積極的に参加できる演習であった。	4.8
15	次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える演習内容であった。	4.7
16	演習をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。	4.8
17	演習中は積極的に取り組んだ。	4.8
18	迷惑行為をしなかった。	4.8
19	グループワークは協調性をもって行えた。	4.8
20	不明な点は、教員に質問した。	4.7

専攻科（臨地実習）

番号	項目	平均点
1	実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。	4.7
2	実習で使用する資料や物品は準備されていた。	4.5
3	参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。	4.2
4	指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。	4.6
5	学生が対象者（患者・家族等）とうまく関われるように配慮していた。	4.5
6	学生がスタッフとうまく関われるように配慮していた。	4.4
7	報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。	4.5
8	学生が望む体験ができるような機会を作っていた。	4.7
9	記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。	4.6
10	オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。	4.7
11	学生の看護観を深める実習内容であった。	4.7
12	場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。	4.7
13	正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた	4.7
14	対象者の個別性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。	4.6
15	看護者としてのモデルを示していた。	4.6
16	熱意や誠実性が感じられた。	4.6
17	学生の人格を尊重した関わりであった。	4.2
18	記録物の量は適切であった。	4.3
19	事前課題の提示の時期・量は適切であった。	4.4
20	実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。	4.4
21	学生の知識・力量などに合わせて指導していた。	4.6
22	学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。	4.7
23	さらに深く学びたいと思える実習であった。	4.6
24	この実習指導は良かった。	4.7
25	実習に臨むための事前準備（シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習）を行った。	4.7
26	積極的（意欲的）・主体的に取り組み、常に学ぶ姿勢をもっていた。	4.8
27	常に倫理観をもって取り組んだ。	4.8
28	チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。	4.6